

今週（7月2日から7月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間の後半に差し掛かったものの、調達ニーズは限定的で、引き続き弱めの地合いで推移した。

2Yの発行や税・保険料揚げなどの大幅な揚げ要因があったため、当座預金残高は390兆円台前半から380兆円台後半に減少した。無担保コールO/N物は週を通して▲0.086～▲0.05%のレンジでの出会いで推移した。そうしたもて、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.07%台前半で推移した。3日積みとなる週末の6日も地合いに変化はなく、▲0.086～▲0.05%のレンジでの出会いとなった。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.06～▲0.05%近辺での出会いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは6日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,311億円（期落ち額1,260億円・150億円）と札割れとなった。3M物はオファーされなかったため、現在の共通担保オペは全て2W物となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、▲0.105～▲0.085%の狭いレンジでの取引となった。業者の売物は然程多くはないものの、積みの後半にかけて投資家の資金調達意欲が増してきている印象で、週を通して売物はしっかりの展開であった。

SCは個別銘柄では5Y130～135、10Y334～351、20Y160～164、30Y50～58、40Y11などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、売り物が薄い中、強めの出会いも散見されたが、全般的には動意なく閑散なマーケットだった。

週初2日に5,000億円がオファーされた短国買入オペは、平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回り較差▲0.002%、応札額17,342億円となった。引き続き応札額は多めで推移しており、需給改善には至ってはいないものの、落ち着いた結果であった。

6日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.145～▲0.135%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1380%、按分落札利回▲0.1328%としっかりした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、期末に有利子負債削減で発行を控えていた一般事業法人からの発行再開の動きがみられ、週間償還総額約6,450億円に対し、週間発行総額は約1兆1,100億円程度と大幅な発行超となり、市場残高も17兆円台を回復した。a-1格以上の発行レートは、発行頻度の低い銘柄で▲0.015～▲0.005%、それ以外の銘柄では浅いマイナス～0%近辺での決着となった。

5日にはCP等買入オペが2,000億円が実施された。特定銘柄が応札されたことや、前回オペ比で500億円の減額になったこともあり、平均落札レート0.000%、按分落札レート▲0.003%といずれも僅かに上昇する結果となった（前回平均▲0.002%、按分▲0.005%）。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/2 (月)	21,811.93	0.020	111.00	△ 0.074	△ 0.103	3,918,900
7/3 (火)	21,785.54	0.035	111.00	△ 0.073	△ 0.102	3,922,300
7/4 (水)	21,717.04	0.030	110.35	△ 0.073	△ 0.101	3,871,400
7/5 (木)	21,546.99	0.030	110.38	△ 0.072	△ 0.101	3,878,000
7/6 (金)	21,788.14	0.025	110.70	△ 0.069	△ 0.097	3,871,600

来週（7月9日から7月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/9 (月)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 6月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	TB6M 23,000億円 7/10発行			5月の米消費者信用残高
7/10 (火)	6月のマネーストック(日銀 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 20,000億円 7/11発行			
7/11 (水)	5月の機械受注統計(内閣府 8:50) 6月の企業物価指数(日銀 8:50) 5月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	エネルギー 対策借入 7,000億円 7/20借入			6月の米生産者物価指数 5月の米卸売売上高
7/12 (木)		20Y 10,000億円 7/13発行			6月の米消費者物価指数 6月の米財政収支
7/13 (金)		TB3M 42,500億円 7/17発行	交付税借入 10,500億円 7/24借入		7月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/9 (月)	1,200	1,500	2,700	全店共通 CP買入 国債買入 国債補完	▲ 1,400 ▲ 200 1,200	1,300 8,600	9,500	12,200	TB3M発行▲42800償還41900
7/10 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000	CP買入		2,000	2,000	1,000	TB6M発行▲23000償還22000
7/11 (水)	0	▲ 28,000	▲ 28,000				0	▲ 28,000	5Y発行▲20000
7/12 (木)	▲ 1,000	▲ 18,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	源泉所得税(賞与分) 労働保険 社会保障費
7/13 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	20Y発行▲10000
週間合計	▲ 800	▲ 47,500	▲ 48,300	—	▲ 400	11,900	11,500	▲ 36,800	

7/9は日銀予想、7/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、9日にTB3M、10日にTB6M、11日に5Yの発行、12日に夏季賞与に伴う源泉税上げ、13日に20Yの発行などがあり、不足日が多い週となる。積み期間も終盤に差し掛かるため、無担保コールO/N物加重平均レートは上昇基調で推移すると見込まれる。

レボ市場は、利国、短国の発行に加え、積み最終にかけての投資家の資金調達需要も見込まれることから、足元GCは▲0.10～▲0.08%のレンジでの推移と予想する。

短国市場は、9日に6M物、13日に3M物の入札が実施予定となっている。GLレートが上昇基調にあるが、償還が四半期末越えとなる銘柄のため、未越え需要が注目される。

CP市場は、12日にCP等買入オペが2,000億円が実施予定となっている。オファー額2,000億円が続くこともあり、当分の間はわずかなマイナスでの決着が続くことが予想される。

主要なイベントとしては、海外では12日に6月の米国CPIの公表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入